

2019年ラグビーワールドカップ普及啓発事業
「放課後ラグビープログラムモデル事業」 成果・総括報告

(公財) 日本ラグビーフットボール協会
普及競技力向上委員会 中学生部門

(公財) 日本ラグビーフットボール協会 (JRFU) が掲げる「JRFU 戦略計画」に基づき、中学生のラグビー競技者拡大に向けた環境づくりのため「放課後ラグビープログラム」を実施した。

文部科学省委託事業の3か年目として、今年度はモデル校2クラス、アカデミー校3クラスの合計5クラスに事業を拡大し、地域特性を活かした事業展開となった。

各クラスとも JRFU 強化コーチ (日本体育協会コーチ資格) 保有者を指導者に配置し、一貫指導プログラムに則った均一・均質なプログラムによる指導を行った。また、昨年度の民間 NPO 法人、大学ラグビー部、地域指導員との連携に加え、一部のクラスでは新たにトップリーグチームと連携しグラウンド提供や選手による指導協力を得た。各教室の特徴を活かした事業が展開されるとともに、中学校の部活動や地域クラブとの連携、差別化がなされ両者の活動を補完する役割が達成された。

<事業の目的>

中学生のラグビー競技者は中学校の部活動ないし地域ラグビースクール (スポーツ少年団) での活動となるが、いずれもチーム数の不足により参加意欲のある中学生に十分な競技機会を提供できていない。

この現状を踏まえ、以下の5点を目的とした事業内容とした。

- ・ラグビースクール経験者が中学校進学後も継続してラグビーに触れられる機会の創出
- ・活動が週末に限定されるラグビースクールの選手が平日にラグビーに取り組む機会の提供
- ・他のスポーツに取り組む中学生が新たにラグビーに触れるきっかけづくり
- ・試合や大会出場を目的としないスポーツ参加を希望する中学生への運動機会提供
- ・所属ラグビースクール以外の指導者からの技術指導による新たな楽しみの創出

<事業の成果>

参加生徒及び保護者に対し第12回レッスン終了時にアンケートを実施した。

アンケート結果から、各クラスの特徴を活かした事業展開により、全クラスにおいて高い参加満足度を収めたことが認められた。今年度はトップリーグ連携、大学連携、地域ラグビー協会連携と3タイプでのクラス運営となったことで、クラス運営に係る多様な知見とノウハウを蓄積できたことも大きな成果である。また、アカデミー校3クラスのうち2クラスが来年度より自主運営によるクラス運営を開始するに至ったことも本事業のシステムが機能した成果と言えよう。

企業、地域、自治体、教育機関、中央スポーツ競技団体が連携して、子どもたちにスポーツ環境と機会を提供する本事業は、ラグビーのみならず、他のスポーツでも活用できる新しいスポーツ環境モデルとなることが期待される。

こうした成果を収めた要因に次の3点が挙げられる。

- ・モデル校とアカデミー校を設けたことにより、モデル校の指導内容をアカデミー校が踏襲するシステムが機能し、クラス数が増えても質の高いプログラムが提供できたこと。

- ・地域協会や近隣のラグビースクールと良好な関係を構築することの重要性を指導者が認識し、他団体との円滑な関係が構築されたこと。
- ・開催数日後にクラスレポートをホームページ上で公開し、活動内容を周知したこと。

また、クラスごとの具体的な成果について以下に挙げる。

- ・ラグビー競技者の少ない地域（徳島・滋賀）での開催により、未経験者にラグビーに触れる機会提供ができた。
- ・トップリーグと連携したクラス（東京・群馬）ではトップレベルの指導者、選手から最先端の指導を受けることで参加者に多くの刺激を与えることができた。
- ・大学と連携した教室（滋賀・福岡）では、大学に所属する教員志望の学生及びラグビー部員が参加し、参加者への指導を手厚く実施できた。これは連携先の大学においても、参加学生に対する教育的効果があったとの報告を受けた。
- ・トップリーグ（東京・群馬）及び大学（滋賀・福岡）と連携したクラスでは、連携先においても新しい地域貢献、地域連携として可能性が感じられたと報告を受けた。

<今後の課題>

- ・本事業は安全を最優先し、ラグビー初心者がラグビーを学ぶことを前提とした事業である。事業の主旨は参加者募集の際に明示しているが、参加したラグビー経験者の保護者からはフルコンタクトでのゲームや強化を目的としたハードトレーニングの要望が寄せられる。今後の継続的な事業実施には、特にラグビー経験のある参加者に対して、事業の主旨理解を徹底する必要がある。
- ・運動量について、全クラスにおいて参加者の満足度が比較的低い結果となった。ただし、平日の放課後の実施である点や、JRFU 指導者資格を有する者からラグビーの指導を受ける機会という点において、運動量よりも、あくまでもラグビーを楽しく学ぶことを目的とした運営が良いと思料する。この点においても特にラグビー経験のある参加者に対して事業主旨の理解徹底が求められる。
- ・ラグビー経験者、未経験者が混在する中、指導者の努力により両者に対して満足度の高いレッスンが行われた。多様な競技歴の参加者がある場合には事前にグループ分けを行うなどの準備や現場での判断が肝要となる。
- ・平成 24 年度からの 3 か年において、開催地域は JRFU 競技力向上委員会コーチ部門により選定された。本事業の実施希望が多数寄せられていることを踏まえ、今後モデル事業から、次のステップに移行する際は、開催地域選定方法の明確化や開催希望者への対応について協議する必要がある。